



大塚医師より

まだまだ暑い日本列島、さすがに秋田は秋になってきましたね。この秋はいわゆる夏かぜ(手足口病・ヘルパンギーナ・流行性角結膜炎)はあまり流行せず、マイコプラズマ・百日咳・リンゴ病などが多かった様に感じます。あまりに暑いので虫も元気がなく(32℃以上だと減るそうです)、とびひや毛虫にやられるなどの患者さんも少なかったような印象です。

今回はりんご病について少し…りんご病(伝染性紅斑)は、両頬に赤い紅斑が出る小児に多い感染症です。ヒトパルボウイルスB19 というウイルス感染症です。10-20日の潜伏期間後、微熱・かぜ症状があり(この期間に感染)、その後発疹が頬・四肢にあらわれます(この期間はもう感染力はありません)。分からないうちに感染していることもしばしばです。

妊娠中にかかるとう胎児に影響が出ると言われているため、小児のうちにかかっている方がよいと思います(終生免疫:一度かかるともうかからない)が、感染していても症状がない(不顕性感染)ことも多いため、一般的な感染対策(手洗い・うがい・マスク)をやっておくしかありません。

この地域でもパラパラとりんご病がみられます。全国的にもはやっているようです。

小児科外来より

今年は猛暑が続きました。9月に入り朝夕涼しくなりましたが、日中はまだ暑い日が多いですね。

夏前から続くマイコプラズマ感染症とコロナウイルス感染症が主な流行です。咳と発熱が症状であるマイコプラズマ感染症ですが、潜伏期間が2~3週間と長く、罹患した人が回復してから症状が出ます。周囲に罹患した人がいた場合、受診の際にお話しすると良いでしょう。

★小児科外来に電話がつながりにくい状況が続きご迷惑をおかけしています。順次対応してまいりますので、ご理解のほどよろしくお願いします。
★小児科医師の不在にて休診日があります。病院ホームページに掲載していますので、事前にご確認をお願いいたします。

伝染性紅斑

両頬に赤い発しん(紅斑)が出ることから「リンゴ病」とも呼ばれる小児に多い感染症です。



10~20日の潜伏期間の後
微熱・かぜに似た症状
この時期にウイルスの排出が多くなります。



こんな症状がみられます

ほっぺたがリンゴのように
赤くなります(紅斑)

発しんが現れたときにはウイルスの排出はほとんどなく、感染力もほぼ消失しています。発しんは1週間程度で消失しますが、中には長引いたり、一度消えた発しんが短期間のうちに再び出現したりすることがあります。

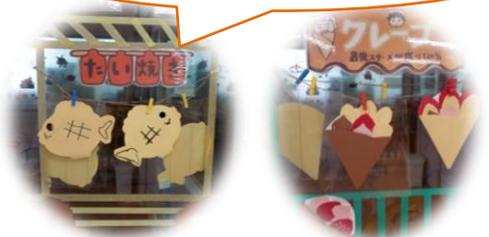
予防と対策

手洗い、マスク着



※厚生労働省ホームページより抜粋しています。詳細についてはQRコードを!!

秋だ! 祭りだ! 屋台だ~



9月 病児保育室ではお面や屋台の食べ物を作って遊んでいます



★次回12月発行予定★

独立行政法人地域医療機能推進機構(ジェイコー)秋田病院

病児保育室はっぴい

〒016-0851 秋田県能代市緑町5-22 3階ナースステーション隣り

TEL (代表) 0185-52-3271 (予約・問い合わせ) 090-8924-4253

アドレス happy@akita.jcho.go.jp

※メールでの予約対応はいたしません

編集 藤田・八木・菅原・大山